

もっと知りたい 福生の歴史（7）

福生市のことをより知ってもらえるように、いくつかテーマをしぼって取り上げています。

国内現存最古の道路レンガアーチ橋 日光橋

現在の日光橋

明治24年（1891）、近代的な技術を用いて作られたレンガアーチ橋に架け替えられました。この橋を活かしながら、昭和25年（1950）に両サイドを拡幅したものが現在の日光橋です。

アーチ状になっている橋の下側をのぞくと、今でも橋の中央部分に明治時代のレンガが貼られている様子を見ることができます。日光橋で使われたレンガは、日野市内で作られた日野レンガが全体の85%近く使われています。

東京都建設局の紅林章央氏によると、日光橋は、国内に現存する最古の道路レンガアーチ橋で、レンガの内側にあたる中詰めにはコンクリートが使われており、国内で初めて橋梁の上部工にコンクリートを使った橋とも考えられるそうです。

（紅林章央、前田研一、伊東孝「東京・三多摩地域における木・石・れんが橋の発展に関する研究」『土木史研究論文集』24号、2005）

福生市内にあって、普段当たり前のように使われている小さな橋ですが、国内に現存する最古の道路レンガ橋という貴重な橋が日光橋です。改めて日光橋をじっくりと眺めてみると、明治時代の技術の高さや当時の様子を感じることができます。



現在の日光橋（平成25年3月）
昭和25年に拡幅がされたが、アーチ形の原形をとどめている。



現在の日光橋に残る日野レンガ（平成25年3月）
日光橋を下からのぞくと、橋の中央部分に、明治時代のレンガがそのまま残っていることを確認できる。



レンガアーチ橋に架け替えられた頃の日光橋（明治36年）

もっと知りたい 福生の歴史（7）

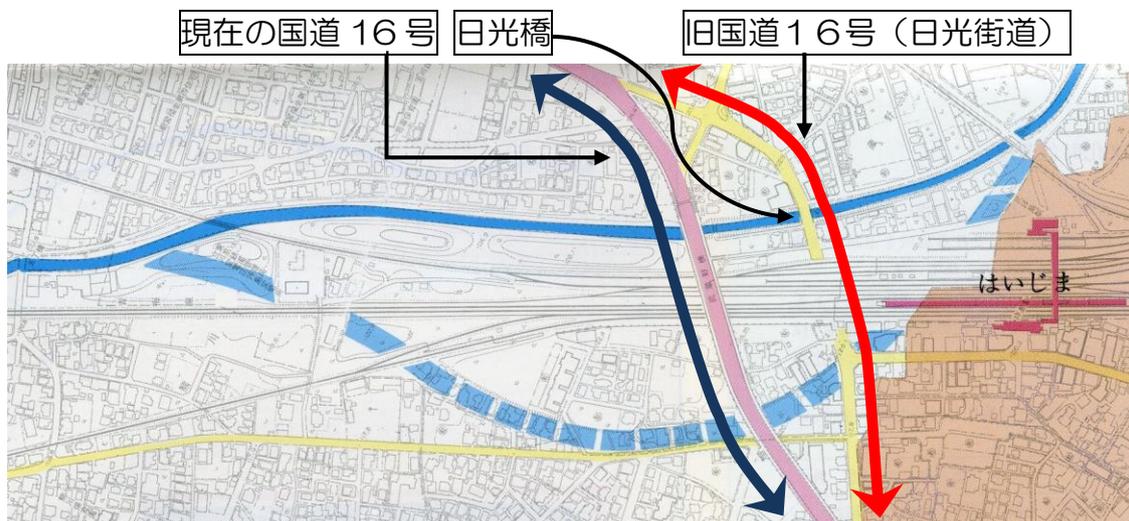
福生市のことをより知ってもらえるように、いくつかテーマをしぼって取り上げています。

日光橋の名前の由来

福生市内を通過する現在の国道16号線は、江戸時代以来「日光街道」と呼ばれていました。これは、八王子に住んでいた八王子千人同心が日光へ警備に行く際に使った道路だったからで、「日光往還」とも呼ばれました。

八王子千人同心は、江戸時代の初め頃、徳川家康によって甲州地域からの防御のために八王子周辺に配置された半農半土の人たちで、その必要性が薄くなってきた慶安5年（1652）からは、日光東照宮の警備を行うようになりました。後年になると、千人同心の職は株所有者がなれるようになり、福生でもこの株を持ち千人同心になる者ができるようになりました。

八王子を出発して拝島宿を過ぎ、玉川上水を渡るところに架けられた橋が、江戸時代以来、街道名にちなんで「日光橋」と呼ばれていました。



日光街道（国道16号）の旧道と日光橋の位置図（『福生市文化財マップ』より）

日光街道の変遷

現在の国道16号線は、拝島駅周辺で武蔵野橋を通っています。武蔵野橋ができるまでは日光橋を通るルートが使われていました。現在でも日光橋から拝島駅の方を見ると、線路の向こう側、現在の共光稲荷神社きょうこうの前から、武蔵野橋南信号まで道路が延びていることが確認できます。かつてはこの日光橋と共光稲荷の前をつなぐ踏切も見られました。

昭和40年（1965）に武蔵野橋ができ、新しいルートができた現在では、拝島駅に向かう人だけが利用する小さな橋ですが、市内を走る大動脈を支えてきた重要な橋が日光橋でした。

なお、市内では、福生飛行場（現在の横田基地）の建設に伴い、現在の横田基地の第5ゲートから瑞穂側の道路では、道路の付け替えが行われています。かつての日光街道は、現在も横田基地の中で道路として使われています。